

水稻早生品種「なつほのか」の特性

農業研究部・水田農業グループ

1. 研究の背景

県水稻作付面積の75%のシェアを占めている「ヒノヒカリ」は夏期高温による白未熟粒の多発生や、粒張り低下によるくず米の多発生により収量低下が問題となっており、生産・流通の両面から新品種導入の要望が高まっていた。そこで高温登熟耐性のある早生・良食味品種「なつほのか」を認定品種に採用した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- 「ヒノヒカリ」と比較して、標準植では
- ・出穂期は4日、成熟期は7日程度早い早生品種である。
 - ・稈長、穂長は同程度、穂数はやや多く、大粒であり、収量は1割程度多収。
 - ・高温耐性に優れ、食味は概ね同程度である。
 - ・いもち病の抵抗性は「ヒノヒカリ」並に弱いため、防除は徹底する。

表 調査データ（水田農業グループ、宇佐市標高8m）

移植期	品種名	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	玄米重 kg/10a	同左 比率 %	千粒重 g	倒伏程度	検査 等級 1.85mm	特性検定		
												タン 玄 米 パ ク %	味 度 値	食 味 官 能 総 合 値
早植 6/10頃	なつほのか	8.14	9.25	86	20.1	363	649	112	22.7	0.0	1下	6.8	78	-0.03
	ヒノヒカリ	8.20	10.04	91	20.0	379	580	100	21.8	0.3	2上	6.6	73	-0.33
標準植 6/25頃	なつほのか	8.23	10.08	84	20.0	410	641	108	23.2	0.5	2上	6.8	84	-0.13
	ヒノヒカリ	8.27	10.15	87	19.6	391	594	100	21.4	0.9	2下	6.7	78	0.00

注1)表中の値は、早植が4か年（2015～2017、2020）、標準植は6か年（2013～2017、2020年）の平均値である。

玄米重の篩い目は1.7mm。玄米重、千粒重は水分14.5%換算値。

注2)倒伏：0(無)、1(微)、2(少)、3(中)、4(多)、5(甚)

注3)食味官能試験の基準米は場内産ヒノヒカリ



図1 「なつほのか」の成熟期頃の草姿



図2 玄米の比較(左：なつほのか 右：ヒノヒカリ)

3. 期待される効果

- ・農家所得の向上、安定生産に寄与できる。
- ・「ヒノヒカリ」との作期分散が可能であるため、生産者の労働負荷が軽減できる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム

TEL：0978-37-1160/FAX：0978-37-1898/住所：大分県宇佐市大字北宇佐65